

アーチがつなぐ歴史と未来

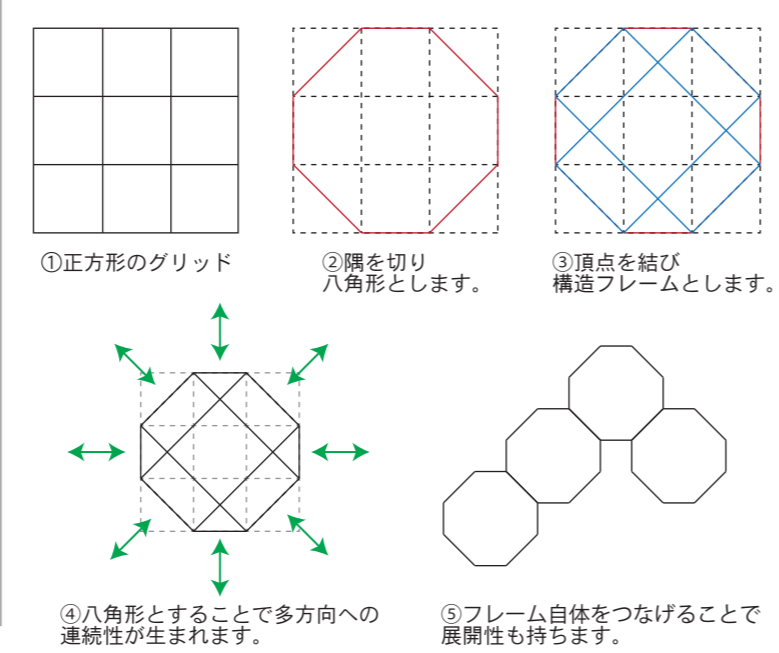
—中城公園自然共生エリア南遊具広場トイレ—

中城湾はかつて琉球石灰岩が隆起した山でした。それは中城ドームと呼ばれています。中城公園はその、かつての山のふもとに位置します。現在は山の頂上付近ですが、かつては山のふもとであり、この大地を形成した歴史の境界のような場所です。ここに建つ建築として、遊具広場とともに、まわりに広がる山や丘陵地、この場所の歴史にもつながっていく建築を提案します。

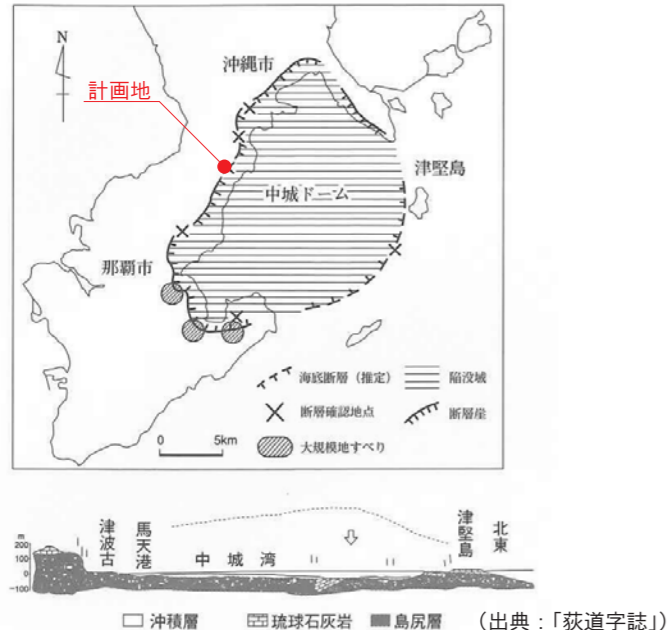
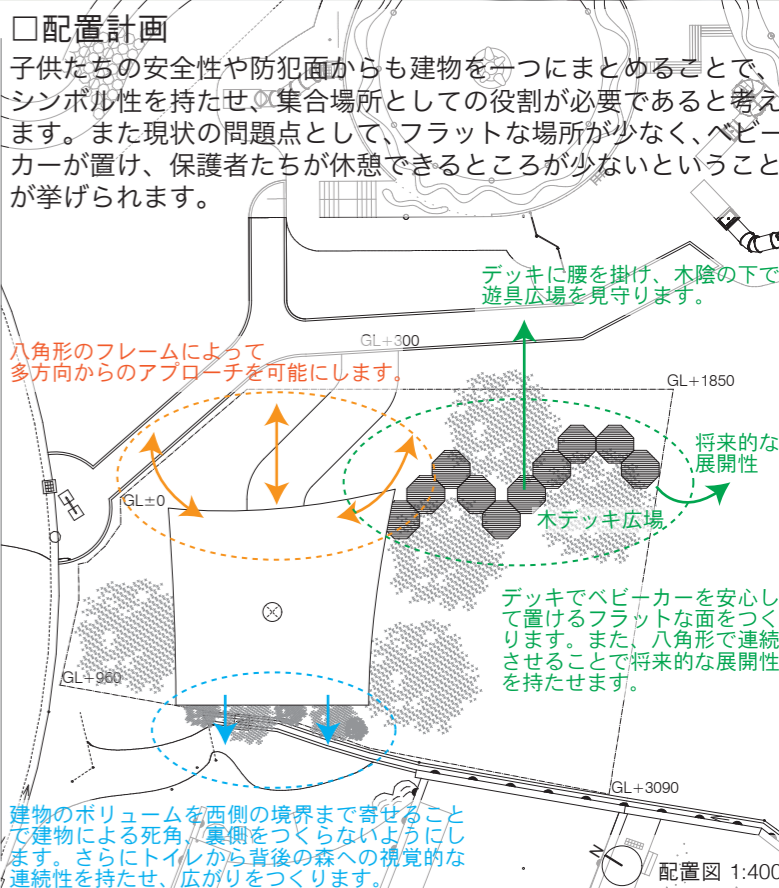
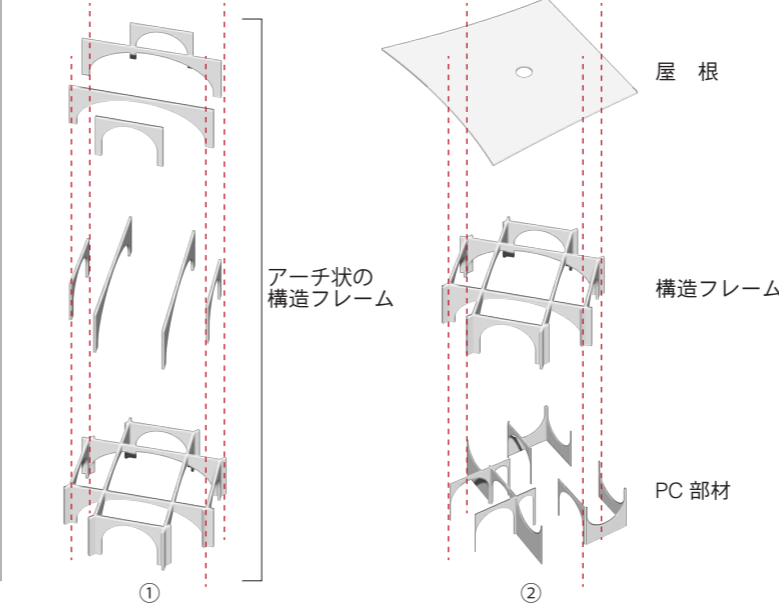


□中城ドーム
現在の中城湾、かつての中城ドームは標高 300m 程度あったと言われています。本計画地はその境界（断層）に位置します。そして、琉球石灰岩でできたその大地は荻道など周辺の地域に豊かな湧き水をもたらしています。この場所は、日常の生活に結びつきながら、自然史的なスケールを持った場所であると言えます。

□八角形のグリッド
隣接する遊具広場はもちろん、原っぱとなっている南側の丘陵地、そして中城ドームというこの地の歴史性をつなぐことが、ここに建つ建築が担う役割だと考えます。そこで、八角形のフレームによって、連続性、展開性を持った計画を提案します。

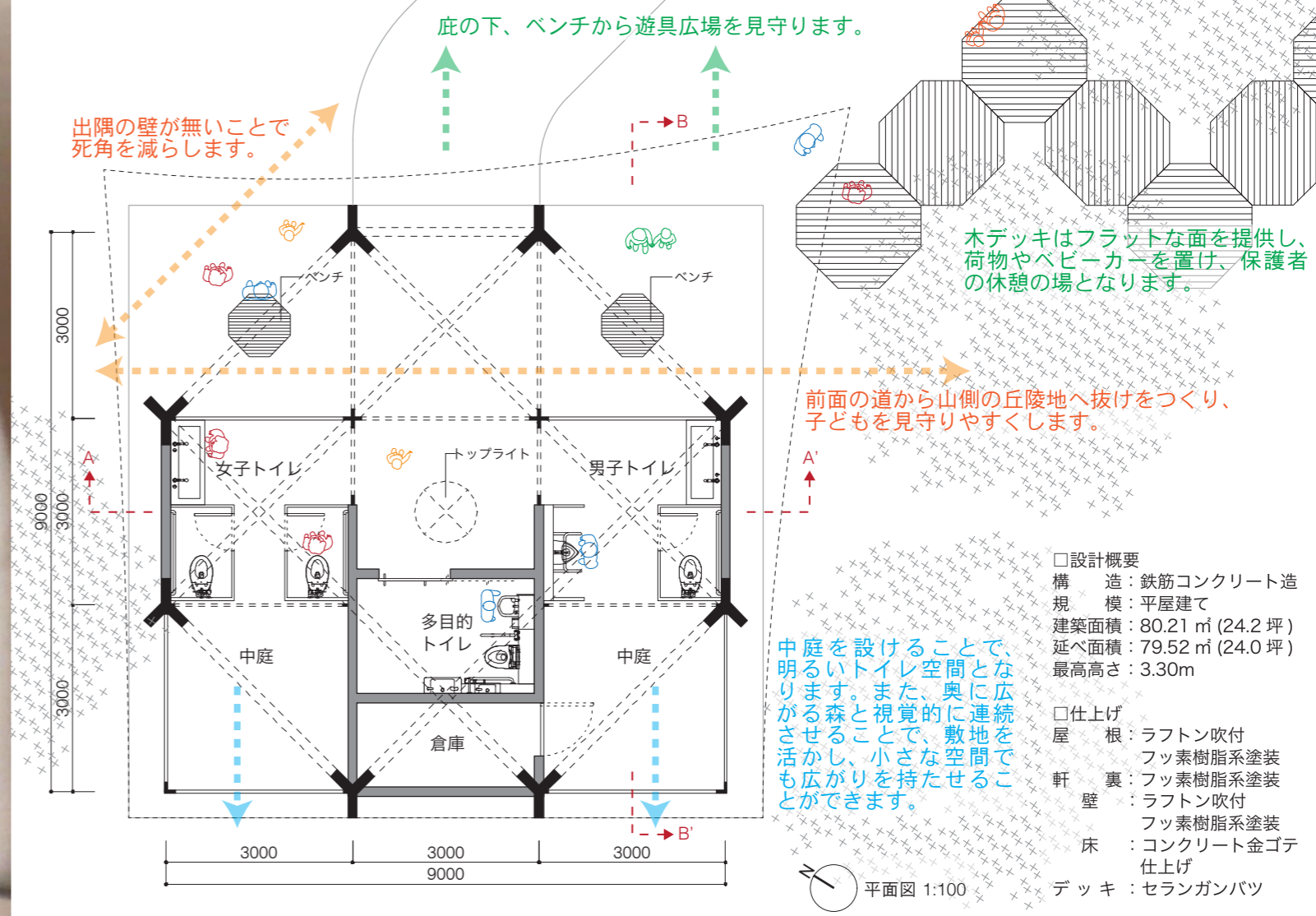


□アーチのフレーム
アーチのフレームはその下に自由な平面を許容します。その空間は、この大地を構成する琉球石灰岩の鍾乳洞をイメージします。
①八角形の頂点を斜めに結んだアーチ状のフレームを構造体とします。
②プレキャストの壁によってプランを規定し、軒下空間をつくる屋根をかけます。





トイレと休憩スペースをアーチのフレームが覆います。



アーチの下は、遊具広場を見守る日陰の空間となります。



アーチのフレームによって、丘陵地への抜けをつくります。



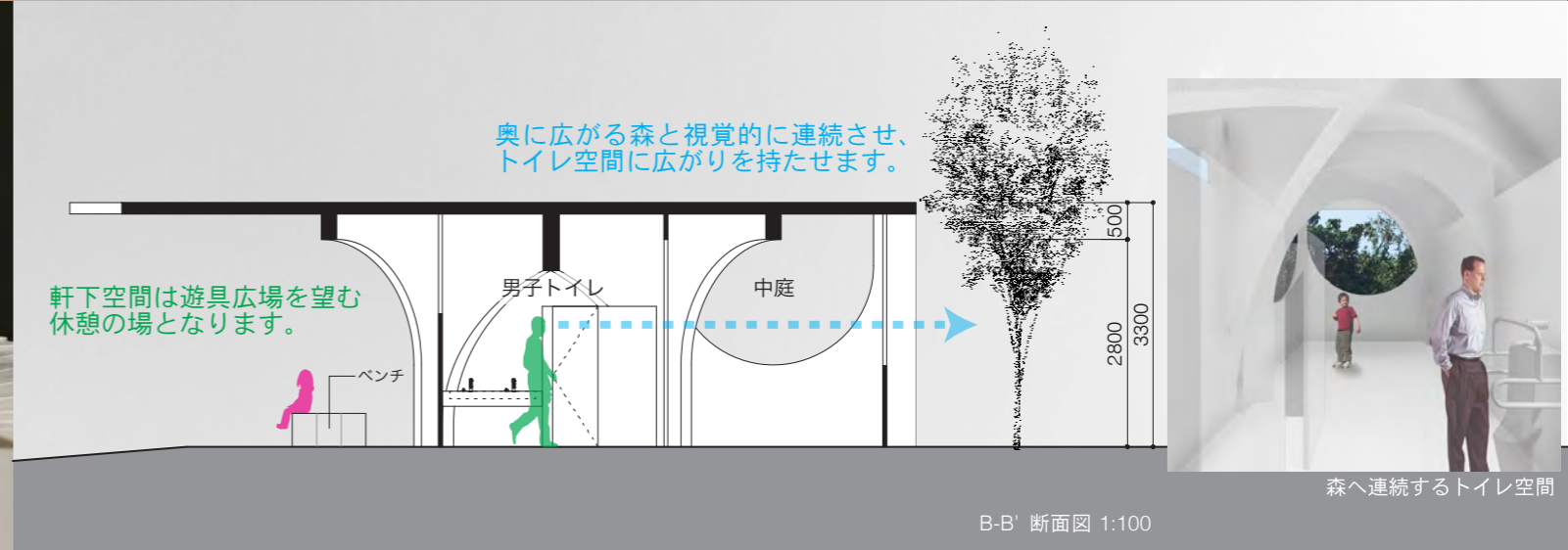
トップライトからの光



デッキに腰をかけ、遊具広場を見守ります。



八角形のフレームによって、多方向からのアプローチを可能にします。



森へ連続するトイレ空間